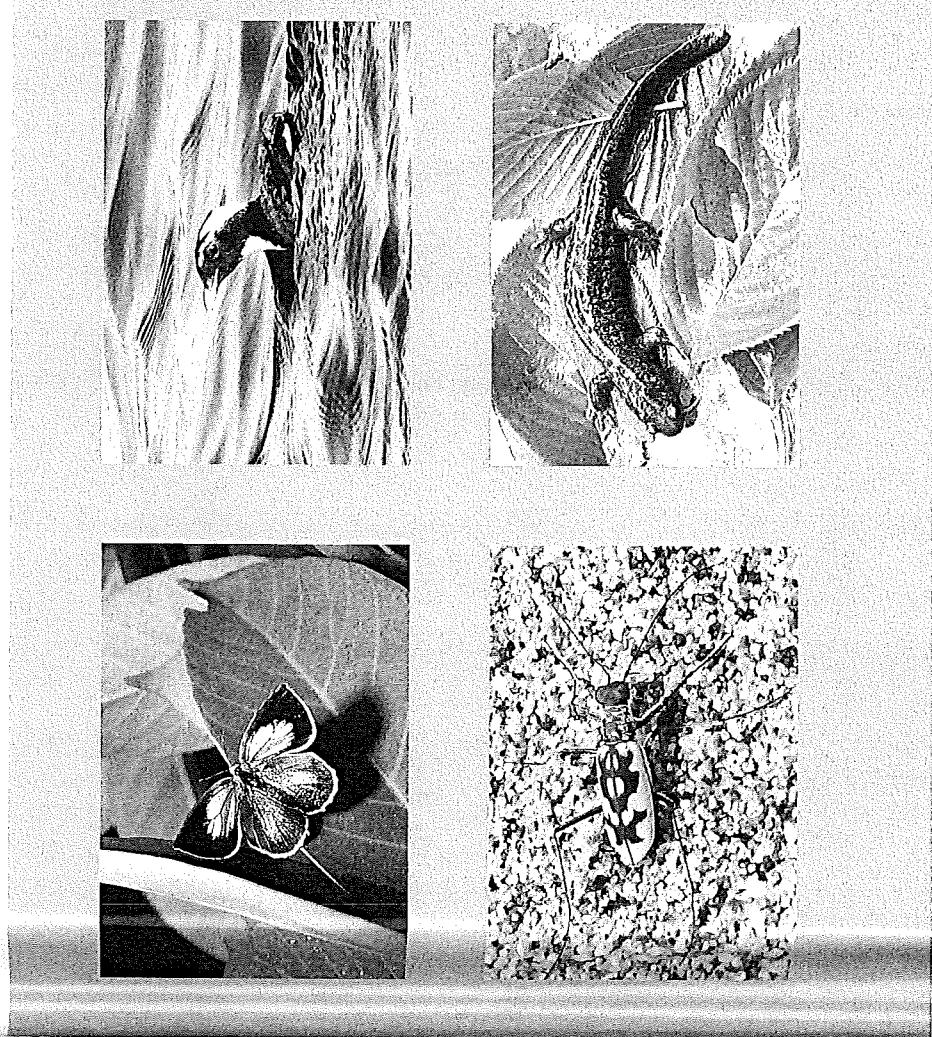


改訂しまね ビデオデータブック **2014 動物編**

島根県の絶滅のおそれのある野生動物

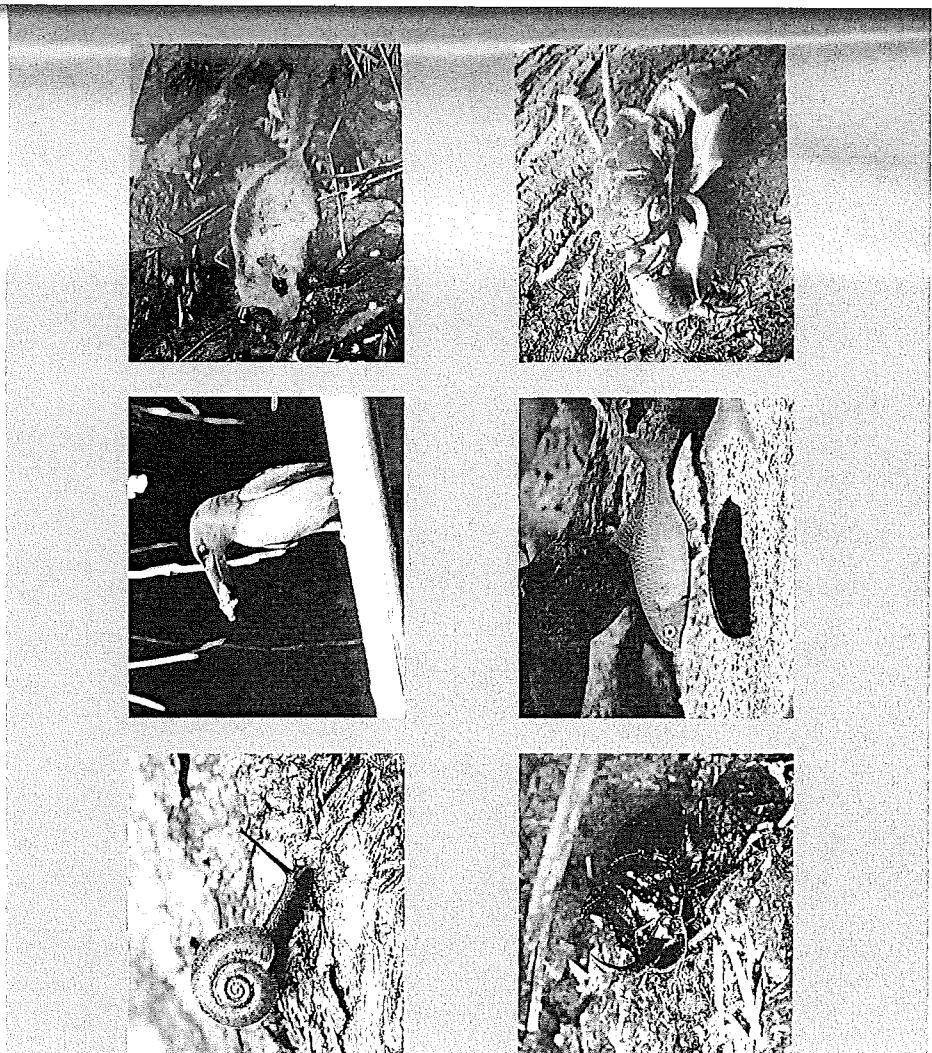


改訂しまねビデオデータブック **2014 動物編**

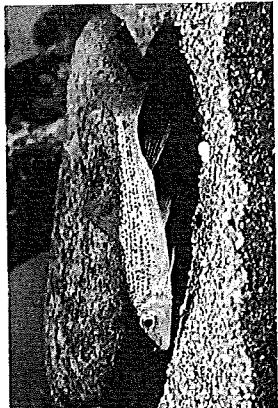
島根県の絶滅のおそれのある野生動物

島根県

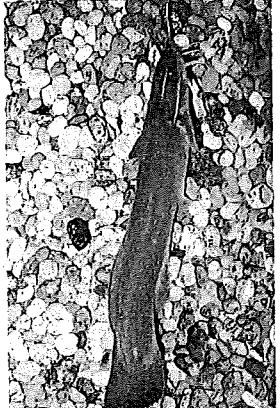
島根県の絶滅のおそれのある野生動物



昆蟲類



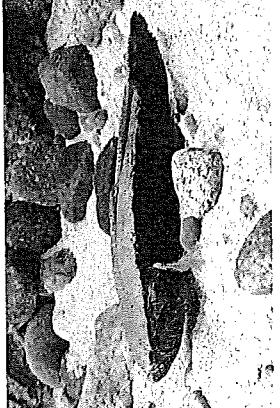
アブラボテ 純絶滅危惧 91ページ



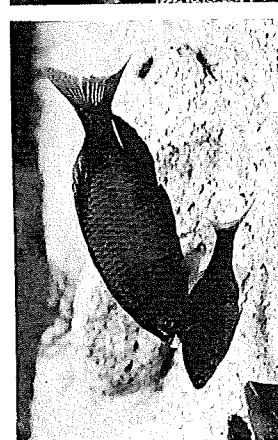
サンゴガタシマドジョウ 純絶滅危惧 91ページ



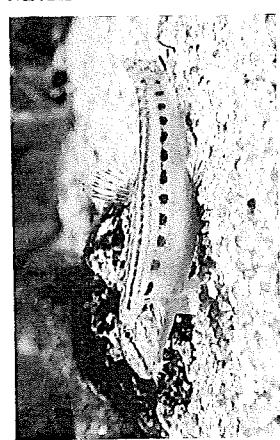
アユカケ (カマキリ) 純絶滅危惧 92ページ



オオヨシノボリ 純絶滅危惧 93ページ



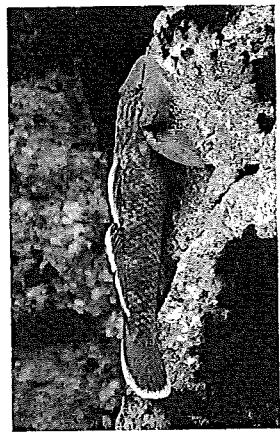
アラボテ 純絶滅危惧 91ページ



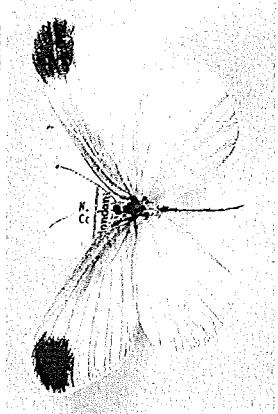
サインコガタシマドジョウ 純絶滅危惧 91ページ



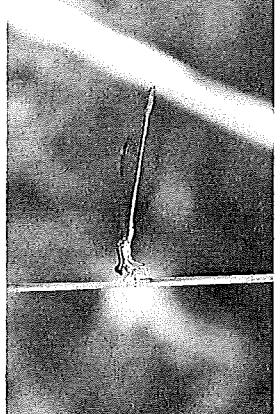
アユカケ (カマキリ) 純絶滅危惧 92ページ



カワアナゴ 情報不足 93ページ



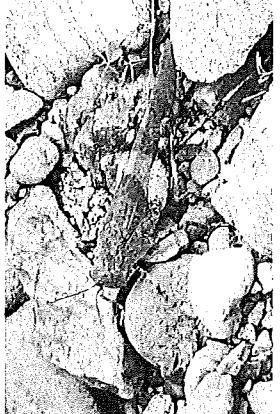
ヒメシロチョウウ 地獄 106ページ



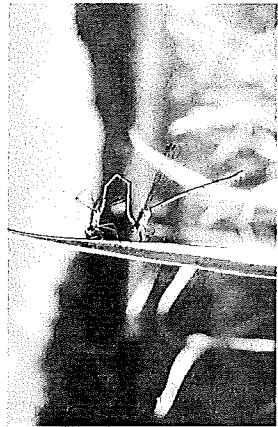
モートントンボ 純絶滅危惧 107ページ



マイコアカネ 純絶滅危惧 108ページ



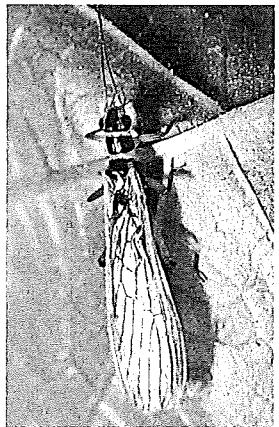
カワラハッタ 純絶滅危惧 109ページ



コバネアオイトンボ 純絶滅危惧 107ページ



ヒロシマサナエ 純絶滅危惧 108ページ



コカワデラ 純絶滅危惧 109ページ



タガメ 純絶滅危惧 110ページ

ヒロシマサンナエ

Davidius moiwanus Asahina et Inoue, 1973

【注定理由】

県内からは約50年間記録がなかったが、2007年に益田市で新産地が発見された。現在この產地が、県内唯一の生息地であり、また国内における本種分布域の西限となっている。

【概要】

全長40–46mm。黒地に黄色い条斑を持つ小型のサナエトンボ。日本特産種モイワサンエの西中國地方亞種で、1954年5月に出雲市所原町で採集された1オスが本種の国内初記録であり、標本も現在。その後、広島県の八幡高原で多數の生息が確認され、広島産標本に基づき亜種記載された。

【出荷地・生息環境・生態記録】

中国地方の他県の産地全てが、中国山地の分水嶺付近に形成された高標高 (alt.500–800m) の湿原等を流れる緩流であるが、益田市の生息地は低標高 (alt.100m前後) の里山の環境の溪流であり貴重。同様の環境は周辺

昆虫類

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：中國地方固有垂類

環境省：－

に少なくないことから、今後の新産地追加が大いに期待できる。

【存続を示す原団】

里山や森林開発による、生息環境の悪化や消失。

【分布図】



島根県		生息地域		山地地域		平原地域		海岸地域	
東部	○	東部	○	西	△	中部	○	北	○
中部	○	中部	○	西	△	中央	○	東	○
西部	○	西部	○	東	△	南	○	西	○

カワゲラ科

コカワゲラ

Miniperla japonica Kawai, 1967

【注定理由】

現在この產地が、県内唯一の生息地であり、また国内における本種分布域の西限となっている。

【概要】

体長8mm前後的小型のカワゲラで、1属1種の日本固有種。基準產地である京都府宇治川では1958–1959年に確認されて後、記録が途絶えている。成虫は7–8月に灯火に飛来する。幼虫の確認は斐伊川下流域の1例のみで生息は未知な部分が多い。

【出荷地・生息環境・生態記録】

1997年に斐伊川で初めて生息が確認され、1998年に中下流域で広範に成虫、1999年に下流域の流水部の砂河床で幼虫が採集されている。しかしながらそれ以降は確認記録がなく、2006–2009・2010年には斐伊川中下流域において本種を対象とした生息調査が実施されたものの、確認に至っていない。毎年調査による生息状況の把握、

島根県		生息地域		山地地域		平原地域		海岸地域	
東部	○	東部	○	西	△	中部	○	北	○
中部	○	中部	○	西	△	中央	○	東	○

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【注定理由】

過去の記録によれば、県東部の平野部で比較的普通に分布していたことがうかがえるが、ここ数年県内からの記録が途絶えており絶滅も懸念されている。全国的にも近年急激な減少傾向が指摘されている。

【概要】

全長29–40mm。小型でやや細身のアカトンボ。成熟オスでは顎面が青白色になる。ヒメアカネ、マユタエアカネに似るが、本種では翅胸部側面に細い黒色条があることで識別できる。朝鮮半島や中国北部にも分布し国内では北海道から九州に分布する。

【出荷地・生息環境・生態記録】

記録のほとんどが島根半島部開拓地であり、中部・西部の沿岸部でも記録が散見される。おもに植生豊かな池沼に生息するが、本種は生息環境の変化に非常に敏感であり、生息地周辺の雑木林の伐采等わずかな環境変化であつても深刻な影響を受けてしまう。懸念諸島では未記

島根県		生息地域		山地地域		平原地域		海岸地域	
東部	○	東部	○	西	△	中部	○	北	○
中部	○	中部	○	西	△	中央	○	東	○

写真口絵11

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：分布較局限種

環境省：準絶滅危惧

幼虫の成育環境等の生態解明が急務である。
【存続を示す原団】
河川及び川下流域の環境変化が考えられるが、生態未解明のため詳細は不明である。



【分布図】

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【注定理由】

県内の分布は局地的であり、生息環境の変化により急激に生息数を減らす可能性がある。
【概要】
体長約25–45mm。体色は、灰色から黄灰色に黒色紋を散布し、河床の縦に似た色彩を持つ。後翅中央部に褐色の半円筋があり、その内側は暗やかな青色。中から大穂サイズの円盤が複数重し、草が隙間に生えるような河川帯に生息する。成虫は7–10月に出現し、河川からやや離れた場所の灯火に飛来することがある。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

【出荷地・生息環境・生態記録】

県内では江の川水系と高津川水系に局地的に生息している。過去に記録のある斐伊川水系や隱岐諸島では、現在は確認できない。過去の隠岐諸島における分布が確実であるとすると、現在は絶滅したとみられる。

島根県		生息地域		山地地域		平原地域		海岸地域	
東部	○	東部	○	西	△	中部	○	北	○
中部	○	中部	○	西	△	中央	○	東	○

写真口絵11

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【注定理由】

洪水が起らないことによる裸河原の草地化。大規模な河床工事による河床工事による河床工事の移動や除去。
【概要】
洪水が発生し後の復旧工事による河床工事の移動や除去。



【分布図】

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【注定理由】

県内の分布は局地的であり、生息環境の変化により急激に生息数を減らす可能性がある。
【概要】
体長約25–45mm。体色は、灰色から黄灰色に黒色紋を散布し、河床の縦に似た色彩を持つ。後翅中央部に褐色の半円筋があり、その内側は暗やかな青色。中から大穂サイズの円盤が複数重し、草が隙間に生えるような河川

帯に生息する。成虫は7–10月に出現し、河川からやや離れた場所の灯火に飛来することがある。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

【出荷地・生息環境・生態記録】

県内では江の川水系と高津川水系に局地的に生息している。過去に記録のある斐伊川水系や隠岐諸島では、現在は確認できない。過去の隠岐諸島における分布が確実であるとすると、現在は絶滅したとみられる。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

ふ化した幼虫は巻き貝状の糞を作る。

【生息地】 横浜市で生息地域・生息記録

平地は突出部から石西部にかけて点在するが、個体数は少ない。おもに里山の森の植栽されたサクラ樹で発見される。島崎諸島では未記録。

【特徴】 里山的環境の開拓、殺虫剤散布、大気汚染など。

【生態】 黒内の敵力所で記録があり、島崎諸島にも達する。

縁部の草地で得られる。

キボシマルウツカ
Ishiharanus iguchi (Matsumura, 1916)

【生息地】 生息地が局限され、個体数も少ない。

【特徴】 体長（翅端まで）5mm、半球形で前翅は橙色に黒褐色の斑紋があり、ある種のテンツムシに似ている。ナガバノヤマオなどのイクサ科植物に寄生する。国内では本州・四国・九州・国外では中国に分布する。

【生態】 黒内の敵力所で記録あり、島崎諸島でも記録がある。

【開発】 島崎諸島の草地、生態記録

島根県の環境の開拓、殺虫剤散布。

島崎諸島の草地で得られる。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

カメムシ目マルウンカ科

カタビロクサビウンカ
Issus haninensis Matsumura, 1913

【生息地】 生息地域・生息記録

アカマツやネズなどの針葉樹につく希種とされ、県内における生息記録は少なく、アカマツ林の表題の指標となる。

【特徴】 体長（翅端まで）8mm程度のウンカのなかもある。

頭部は黄褐色、体は黒褐色でやや扁平。前翅の幅は広く後方にに向かってやや狭くなる。前翅の膨出部には白帯がある。本州と四国に分布する。詳しい生態・分布はあきらかでないが、発生期は6月頃らしい。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

カメムシ目マルウンカ科

キノカワハゴロモ
Atracis formosana (Jacobi, 1915)

【生息地】 生息地域・生息記録

最近近畿で分布が確認された南方系の種であり、アリと共生するなど独特の生活様式をもつ同属類である。

【特徴】 体長（翅端まで）7mm程度のアオハハゴロモの仲間。

体は扁平で卵型。緑色の地上に暗黒色の模様が全体にあり、樹皮に似ていている。翅眼はよく發達し側方に突出する。成虫は各種の広葉樹上に見られ、幼虫は樹皮下で生活し、ヤマアリなどのアリに保護されている。島崎諸島には分布するが、1990年代後半に九州から山口県、奈良県の数カ所で発見されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

カメムシ目アオハゴロモ科
スケバハゴロモ
Euricania fascialis (Walker, 1858)

【生息地】 生息地域・生息記録

島根県の山間部の雜木林（クリーコナラ林）などに生息する。

【特徴】 開発に伴う森林破壊や、殺虫剤散布など。

【生態】 森林伐採やアカマツ林の遷移、「松枯れ予防」と称する殺虫剤散布。

【開発】 「松枯れ予防」

島根県の生息地

中山間地5カ所で確認されているが、島崎諸島には記

ムネアカアワフキ
Hindoloides bipunctata (Haupt, 1923)

本科は熱帯地方に多く、日本産は2属2種。幼虫は石灰質の巣を寄主上につくる。生息地は全国的に限られ、中国地方での記録も少ない。

【特徴】 体長（翅端まで）オス4mm、メス5mm。オスは小橋板が赤色で他は一様に黒色。メスは前胸背も赤色。前翅は黒色で、先端部は灰質。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾・中国に分布し、ソメイヨシノなどのサクラ類を寄主とする。成虫は4~5月ごろ現れる。

カメムシ目セミ科
チツチゼミ
Kosemia radiator (Uhler, 1896)

【生息地】 生息地域・生息記録

本州のセミでは最小であり、見つけにくく。里山的環境に適応した種だが、個体群密度の把握が難しい。

【特徴】 体長27~32mm、開張48~57mm、メスがやや大きい。

体は黒色、体表に銀灰色の鱗毛を有する。腹面の大部分は黄褐色。成虫は原葉部平地を8月中旬から11月上旬にかけて現れる。産卵はツツジ類などの生垣中に行う。日本特産種で北海道・本州・四国・九州に生息する。

カメムシ目ハネビロウンカ科
キスジハネビロウンカ
Rhotana satsumana Matsumura, 1914

【生息地】 山地の広葉樹林で得られるが、生息地が局限され、個体数も少ない。

【特徴】 体長35mm。翅端まで7mm。体は淡黄褐色で、前翅は著しく広く大きい。前翅には外縁に平行した暗色帶をもつ。詳しい生態は未知であるが、カンランを吸汁している観察記録がある。国内では本州・四国・九州、国外では中国に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

カメムシ目ハネビロウンカ科

アリヅカカウンカ
Tettigometra bipunctata Matsumura, 1900

【生息地】 生息地域・生息記録

島中部の中国山地林縁部の1カ所で記録されている。

【特徴】 広葉樹を主とする自然林の破壊や分断。

【生態】 体長（翅端まで）5mm、ふつうのウンカに比べて体幅が広い。体は淡褐色で、暗赤褐色と赤色の顆粒を散布する。本州のみから知られる希種で、幼虫はアリの巣内で生活するという。

【開発】 中山間地5カ所で確認されているが、島崎諸島には記